

第24期日本学術会議・総合工学委員会・総合工学企画分科会（第1回）議事録
(Ver. 1.2)

日時：2018年1月25日（木） 9：30－11：30

場所：日本学術会議5階 5-C（2）会議室

出席者：大倉典子（芝浦工業大学）、大野英男（東北大学）、小山田耕二（京都大学）、鈴置保雄（愛知工業大学）、筑本知子（中部大学）、所千晴（早稲田大学）、中村崇（東北大学）、波多野睦子（東京工業大学）、藤井孝藏（東京理科大学）、松尾由賀利（法政大学）、吉村忍（東京大学）、渡辺美代子（科学技術振興機構）

配布資料：

資料1 第24期・第1回開催通知

資料2 総合工学企画分科会の設置申請書

資料3 総合工学会委員リスト（2017年12月幹事会提出分）

資料4 総合工学企画分科会、委員リスト（2017年12月幹事会提出分）

資料5 同分科会、追加委員候補

資料6 総合工学委員会所属（主とするもの）の分科会申請書（設置分）一式

資料7 科学的知見の創出に資する可視化分科会申請書（新規）

資料8 総合工学企画分科会活動内容たたき台

資料9 23期提言「社会的課題に立ち向かう『総合工学』の強化推進」

参考 超スマート社会への課題と大学のあり方（吉川弘之先生記事）

議題：

1. 役員決定

出席委員の互選により、満場一致で、総合工学委員会吉村委員長が本分科会委員長に選任された。引き続き、吉村委員長より、総合工学委員会役員（大倉副委員長、小山田幹事、所幹事）がそれぞれ本分科会の役員（それぞれ副委員長と幹事）へ指名された。続いて、資料2に基づき本分科会の設置目的が説明された。

2. 総合工学委員会の運営方法

吉村委員長より資料3に基づき、24期総合工学委員会の委員が118名（第22期は約80名、第23期は約60名）となったことが報告され、続いて委員会の運営方法に関して議論を行った。その結果、第2回総合工学委員会を4～6月に開催すべく、早めに日程調整を行うこととなった。その際に、定足数、旅費、会場等に関しても十分に留意することが確認された。

3. 総合工学企画分科会活動方針

総合工学企画分科会の活動に関して、はじめに分科会委員候補に関して議論が行われた。その結果、総合工学委員会に所属する全分科会（総合工学委員会を主とするものと副とするものすべて）の活動との本企画分科会との連携をよくするために、それらの分科会の委員長または委員長が指名する分科会役員に対して、総合工学企画分科会委員就任を依頼することが提案され、了承された。さらに、必要に応じて定員（30名以内）の範囲で適宜委員候補を追加することも了承された。資料5に記載された委員候補については満場一致で承認された。

次に、総合工学企画分科会の配布資料を欠席委員に配布する方法について議論された。メールや日本学術会議掲示板等を使った方法などについて意見交換を行った後に、当面は、メールベースで配布することとなった。

続いて、吉村委員長より、資料8に基づき、当分科会における活動内容に関するたたき台が説明され、その後議論を行った。その結果、23期の提言の内容を参考にしながら、今期の委員会及び分科会の活動を進めていってもらうこと等が承認された。

4. 新分科会の設置

小山田幹事より、資料7に基づき、科学的知見の創出に資する可視化分科会の設置趣旨が説明され、審議の結果、設置が承認された。また、吉村委員長より、大和裕幸先生と鈴木真二先生が中心になりフロンティア人工物に関連する分科会を24期も立ち上げるための準備を進められていることが紹介された。

5. その他

吉村委員長より、今後の本分科会の運営について、全体で2時間開催のうち40分程度は、委員等からの話題提供の時間にあて、主に、その委員が所属する分科会のなかで出された、提言の咀嚼結果に関する内容としたい、と述べられた。

本分科会の委員の中でメールを共有する件について検討が行われ、参加委員は全員承認した。本日欠席の委員へは別途確認をとることになった。

以上